

〔第26回 学術集会シンポジウムⅡ〕

家族看護モデル活用における課題と今後に向けて

名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻

浅野みどり

訪問看護認定コース履修生を対象に家族看護モデルを用いて事例検討グループワーク（GW）を行ってきた。その結果を分析し、訪問看護認定コース履修生は①“どのような事例”について“どんな家族看護アセスメントモデルを活用して事例展開に挑戦したか”，②GWを通して，“何を学び”“どんなことに難しさや課題を感じたのか”を振り返ることで、家族看護実践の悩みや課題を見出すことを目的とした。

①事例の特徴：25事例（6年間）は、高齢者の家族14例、小児事例8例、成年期障がい者家族3例であった。GWで使用された看護モデルは、渡辺式が最も多く14例、家族エンパワメントモデルとカルガリーモデルが各4例、鈴木式、フリードマンモデル、家族生活力量モデルが各1例であった。事例における

問題の焦点は、a. 家族員の意見対立／相違、b. 家族関係の希薄さ、c. 介護者のメンタルヘルス、d. 虐待の危惧、e. ターミナル／看取りであった。

②事例検討で学んだことは、1. 家族看護の基礎知識／基本的な理解（家族単位で援助することの意味や「家族」の再認識など）、2. 家族アセスメントの方法論的な理解、3. 看護実践のポイント、4. 臨床現場への応用であった。困難なことでは、1. 家族看護実践上のスキル、2. 基本的知識の理解、3. 臨床現場での活用であった。

今後は、・実際の身近な事例で、・家族アセスメントモデルを用いて事例検討し、・気づきや有効性を実感し、・Practiceを重ね、・“あたりまえ”の土壤、組織文化を築いていくことと考える。